






















































◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<10月> 業界の景況(前月比DI値)

先月同様、新型コロナウイルスの影響による景況感が続くが、業種によっては回復傾向がみられる。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10～30未満	10未満 ～△10	△10超～ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和2年7月	令和2年8月	令和2年9月	令和2年10月
製造業	食料品製造業	 △17	 △50	 0	 25
	木材・木製品製造業	 △100	 0	 0	 100
	印刷・出版 同関連製造業	 △100	 △100	 △100	 △100
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 △67	 0	 0
	鉄鋼・金属 同製造業	 △33	 △33	 △33	 0
非製造業	卸売業	 △60	 △60	 0	 △25
	小売業	 △67	 △33	 △33	 △33
	商店街	 △67	 △67	 △67	 △33
	サービス業	 △33	 △29	 0	 △14
	建設業	 △17	 △17	 △17	 △17
	運輸業	 △50	 0	 0	 0
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	「Go To キャンペーン」の影響か、観光名所への宿泊客が増加しており、若干ではあるが前月より販売量に動きが出てきた。一方、飲食業の動きが悪く、県内の新型コロナウイルス感染者数を減少させない限り、消費者が安心して食事出来ない状況が続くのではないかと懸念している。
水産練製品業界	Go To トラベル等で客足は増えたものの、売上回復にはなかなかつながらない。
酒造業界	Go To キャンペーンの効果が出荷に表れていない。宿泊、料飲ともに、感染症対策から酒を酌み交わすシーンが避けられているようだ。ワクチンや特効薬で新型コロナウイルスの猛威が去るか、感染の終息が見えてこない限り厳しい状況が続くであろう。
木材業界	<p>9月の住宅着工数は1,318戸で、前月比16%、前年同月比14%増となった。全国的に落ち込む中、持家、貸家、分譲全てが増加した。前年同月比も14ヶ月ぶりに増加に転じた。</p> <p>県の木造住宅建築助成制度に関連する木材の証明件数も昨年実績に追いついてきた。原木は引き続き小丸太が値上がり傾向、中目以上は横ばい。合板、製紙、製材での受け入れ制限は続いている。製品の荷動きは回復傾向にあるが価格は横ばいが続く。合板は減産体制が継続。原木の受け入れ制限は緩和傾向だが、価格は値下がりしている。</p>
生コンクリート業界	出荷量は、前月比では121.3%と増加したものの、前年同月比では99.3%と僅かに減少した。県南地区は、今年の台風19号被害による復旧工事、気仙沼地区は三陸道工事で出荷量が伸びた。その他の地区は震災復興事業の終息、物件の減少、コロナ禍により減少傾向にある。販売価格の値下がりが広まりつつある。
コンクリート製品業界	9月の出荷量は、前年同月比129%、前月比126%とともに増加した。4月からの累計では、前年比113%、在庫は86%であった。今後は生産量とともに、在庫管理等が必要となる。
機械金属業界 A	前月比では好転しているが、対前年同月比では、収益の停滞、悪化傾向は変わらない。
機械金属業界 B	売上は、新型コロナウイルスの影響を受け先月より更に減少した。いまだ収束する兆しが見えず、来月以降も悪化が続くと思われる。
再生資源業界	鉄スクラップ価格は7月から9月にかけて上昇したが、10月に入り、国際市況が軟化し横ばい基調となった。しかし、月後半から西日本地区の高炉メーカーの市中スクラップ購入量が増加し、関西以西に再び値上げの動きが見られた。その流れが月末に関東・東北地区にも広が

	<p>った。内需回復は遅れているものの、海外市況も小幅上昇となり、ベトナム、バングラデシュ向けを中心に、輸出数量は過去最高を更新する勢いで増加しており、11月もやや強気な展開が予想される。</p> <p>古紙は、鉄とは対照的に国内生産が振るわず、海外需要も思わしくない。11月から年末にかけて、価格の下落と、余剰化に悩まされそうである。</p>
繊維業界	<p>消費税増税の昨年に比べ、状況は良いが、イベント中止などにより昨年の売上を下回った。防寒物、ダウンジャケットなど冬物の動きが少しずつ出ており、製造元生産が予定より少なく品薄となる勢い。初売りが予約となり予想が難しい。</p>
ゴム製品卸売業界	<p>10月は台風や大雨といった悪天候により、9月まで好調だった農事関連の販売に大きく影響した。一般産業の工場関係も10月に入り低調で、年末にかけて多少の期待はあったものの、現状をみる限り、予想を下回るのではないかと。</p>
鮮魚卸売業界	<p>週末は他県からの来場者が増えているが、平日との落差が大きく、回復を実感するまでには至っていない。塩釜魚市場にメバチマグロが水揚げされているが、セリ値は昨年並みに達していない。需給動向を反映していると言えばそれまでだが、何らかの価格安定政策が必要ではないか。卸売りはGo To トラベル効果によりホテルでの飲食が増加し、低迷傾向が少し上向いた。また、地域クーポンの購入も増えており、この傾向が継続することを願っている。</p>
鮮魚小売業界	<p>海水温上昇が続き、秋の味覚である生サンマ、秋サケ、生ハラコ、小女子等々不漁で入荷が少なく、超高値である。相変わらず生イカも獲れず売上が落ちるばかりで厳しい状況である。</p>
青果小売業界	<p>昨年のような台風もなく穏やかな天候で、中旬以降、野菜の価格は落ち着いたが、トマト、キュウリなどの果菜類は上昇した。Go To トラベル、Go To イート効果もあり旅館、ホテル、飲食店への納品量が増加した。来年2月以降もキャンペーンを延長することだが、終了後を考えてと楽観視はできない。地域共通クーポンや各市町村で商品券が発行され、小売スーパーの売上も増加傾向ではあるが、必ずしもこのまま売上増加が継続するわけではないので、来月以降の新たな経済対策に期待したい。</p>
食肉小売業界	<p>新型コロナウイルスが大きく影響している。</p>
家電小売業界	<p>新型コロナウイルス感染拡大で家食やオンライン飲み会が増えている中、素材から調理し食事を楽しむ家庭が増えている。ホットプレートや炭酸水メーカーなど一層注目を集めている。また、アウトドアで使える家電の売れ行きが好調で、特にポータブル液晶テレビやグリル、コーヒーメーカーなども人気を集めている。</p>

石油小売業界	原油価格は、欧米の新型コロナウイルス感染再拡大の影響から、需要減が懸念される。また、産油国のリビアの増産を受けて供給過多との見方が強まり、小売価格は小幅な値下がりが見込まれる。
花卉小売業界	売上は、前年同月比で 106.6%と前年を上回ったが、売上が下がっていた昨年との対比であり、当月の売上が良好とは言えない。昨年のような大型台風の襲来や記録的な大雨等の天候による影響がなく、生産や入荷面では安定した月間となった。しかし、依然として売上面で活況がみられず、ブライダルシーズン、葬儀関係の需要や一般店舗販売も、景気低迷と新型コロナウイルスの影響により冷え込んでいる。
商店街	<p>(仙台地区B商店街)</p> <p>商店街全体の人出はコロナ前の 90%まで回復したものの、売上増には結びついていない。プレミアム商品券による恩恵は大型店に集中し、Go To イート、Go To トラベルによる好影響もあまり聞こえてこない。Go To 商店街に期待したいところだが、これもコロナ対策イベントとなりそうだ。</p> <p>(大崎地区A商店街)</p> <p>依然厳しいコロナ禍にある商店街だが、先月に引き続きシネコンの「鬼滅の刃」効果による商店街への誘客の流れが続いている。商店街としては第 2 の活性化策を模索中である。</p>
自動車整備業界	整備業界の基盤となる新車販売は一昨年並みに回復し、整備売上の基盤となる車検台数は例年通り推移している。しかし、相変わらず新型コロナウイルスによる影響がどのような形で整備業界に現れるか不安である。
ソフトウェア業界	ソフトウェアの請負業務は、新規が新型コロナウイルスの影響で減少し、10 月時点での業務量は前月同様に 5~20%減少しており厳しい状況。一方、派遣業務も前年度の派遣法改正に伴う、人件費増加による経費率の高騰に加え、派遣要請に減少傾向がみられ、前月同様に収益率が 5~10%減少と厳しい。サプライは新型コロナウイルスの影響で各企業の物不足対策で、3、4 月の売上は上昇したが、6 月以降の減少傾向にはない。
警備業界	新型コロナウイルス感染症の影響で一時は雇用状況が回復傾向にあったが、Go To トラベルキャンペーンによる観光業界、飲食業界の回復とともに、警備業界から観光、飲食等業界へ人材が戻りつつある。例年同様、年末や年度末にかけての警備員不足が心配される。
湾岸旅客業界	新型コロナウイルスの影響があるものの、Go To トラベル事業に東京が加わり全国展開となった。その効果もあり売上は前年同月比 25%減と減少幅が縮小してきている。乗船定員を 50%に制限しての

	<p>運航を維持しているが、平均乗船率は上昇した。しかし、新型コロナウイルス感染者は増加傾向にあるため、これからもウィズコロナで厳しい状況下を耐え、事業継続を図り、新型コロナウイルスの一刻も早い終息を願っている。</p>
ホテル・旅館業界	<p>Go To トラベルが浸透し利用者は増えているが、仙台市内のホテルは引き続き苦戦している。</p>
シーリング業界	<p>受注が出揃っており、戸建は相変わらず減少傾向。新築工事、改修工事の割合は半々程度。どの工事物件も予算・納期ともに厳しく、集中的な工事量の増加から人的資源が不足している。どの事業所も工期に追われているとの報告があり、工期集中による人員確保の難しさが課題となっている。</p> <p>材料の出荷量は、前月比、前年同月比ともに持ち直してきている。</p> <p>近々の大きな問題はやはり人出不足であり、各社連携を密にして対応に努めたい。各社の経営状況は、諸々の問題が山積みではあるが、いち早い情報の発信やどのような準備が必要なのか、知恵を出し合い、共有して対処していきたい。</p>
建設業界	<p>コロナ禍により、各業界で経営悪化が見受けられる中、建設業、特に公共工事では影響が少なく安定的に仕事が進められている。一方で、今後の民間設備投資や住宅等は控えられる傾向にあり、土木工事は堅調なもの、建築工事は厳しい環境が予測される。経済が厳しい状況に、雇用と経済を建設業がしっかりと支え貢献している。防災・減災、国土強靱化の3か年緊急対策7兆円が今年度で終了するが、災害が頻発している環境下に、国土強靱化や老朽化対策、地方創生の未来への投資に、令和3年度以降も引き続き別枠での予算確保が望まれる。</p>
硝子業界	<p>新型コロナウイルスの影響なのか、新規物件を含め見積り依頼件数が減っているように感じる。</p> <p>コロナ禍で企業間の営業もできていない。</p>
板金業界	<p>10月の景況は、コロナ禍で、新規の受注(住宅)減少が続いているため、リフォームと工場の受注でつないでいる。</p>
タクシー業界	<p>対前年比の実車率は8割程度であるが微増しており、好転とまでは言えないが、輸送収入も上昇気味にある。</p> <p>LPG 価格の値上がり傾向が続いていたが、値上がり幅が大きくなった。</p>
軽自動車業界	<p>4月から8月に比べると若干ではあるが仕事量は増加している。しかし、前年比減少は変わらない。</p>
不動産業界	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、減少していた転居を伴</p>

う企業の異動が増え、賃貸物件の引合いが増加している。